

第6回旧吉田茂邸再建検討委員会結果概要

〔日 時〕平成22年3月29日（月）午後7:00～午後8:45

〔場 所〕大磯町役場4階委員会室

〔出席者〕

（委員 長）中島遺産保存会副会長

（副委員 長）岩崎氏（学識経験者）

（委 員）土方区長連絡協議会会長、三上区長連絡協議会副会長、
重田商工会会長、新宅商工会副会長、鈴木観光協会副会長、
大澤観光協会副会長、吉川中丸町内会長、
宮代ガイドボランティア協会会長、岩井教育委員会委員、
関野氏（学識経験者）

（事 務 局）8名

1 委嘱式

（1）委員委嘱

開会に先立ち、これまで当委員会委員を努めていただいた清田委員の教育委員会委員職の退任に伴い、新しく就任された岩井氏に対する旧吉田茂邸再建検討委員会委員の委嘱状交付式を行いました。

（2）町長あいさつ

みなさんこんばんは。大磯町長の三好でございます。

このたびは、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。また、日頃から大磯町の行政の推進にご協力いただきましてこの場を借りて御礼申し上げます。

昨年3月22日、大磯町の名誉町民でございます、吉田茂元総理の邸宅が焼失してしまいましたことは、みなさまご承知のことと思いますが、大変残念なことですが、大磯町としましては、議会と一体となってですね、再建を目指して取り組んでいこうということで、昨年7月1日に「旧吉田茂邸再建基金条例」を設定させていただきました。再建方法についても、県とともに多角的に検討をしているところでございます。

去る2月5日には、再建の意義を全国に発信するため、東京のグランドプリンスホテル赤坂におきまして、県、財団法人吉田茂国際基金、西武鉄道株式会社との共催でシンポジウムを開催させていただきました。

シンポジウム当日は、基調講演やパネルディスカッションなどを通して、多数の参加者とともに、吉田茂の現代的意義などについての理解を深めたところでございます。

なお、本日お越しの委員の中からも多数のご参加をいただきましたことを、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

町といたしましては、旧吉田茂邸が再建され、吉田茂を通して近現代史のですね、歴史教育を学ぶ空間として後世に受け継いでいくことを是非とも実現したいというふうに考えております。町も県も財政が非常に厳しい状況の中で、やはり再建費用の問題は大きなウエイトを占めており大きな課題の一つとなっております。

再建に向けましては、より多くの方の御理解とより多くの方からの浄財を得ることが、今、何よりも求められている。そういう中で、本日は、「再建への理解促進に向けた取組について」という議題で議論されるということでございますが、委員のみなさまをはじめとする町民の積極的な関わりが、将来の町をあげての明るい話題となることをお祈りいたしまして、活発な議論をしていただければ大変ありがたいと思っております。

簡単ではございますが、以上をもちまして御挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

2 開会

(1) あいさつ

ア 会長あいさつ

前回の委員会から時間が経ちまして桜の花開く時期になりました。

町でも、各方面への働きかけを行っているようだが、広報を見る限り、どうも寄附の足が止まってきている感を受けている。大磯以外にも北海道から沖縄にかけて全国的な広がりが見られるものの、金額的には厳しい状況にあると思う。

また、一方で、私が危機感を抱いているのは、昨年来国内の政治情勢が大きく変わり、知事は以前と変わらない熱意で再建への取組姿勢を見せているものの、県議会の空気が厳しくなっている。そうした中で、県でも1,000億円以上の欠損が出ているといった報道もあり、大磯に何故これほど大きな財政投入が必要なのかといった根本的な議論が交わされる状況になっていると耳にしている。そうした中、肝心の大磯で町を挙げての再建機運が盛り上がっているのかと指摘されれば、回答に窮する状況にあるのではないかと感じる。

本日は、具体的な方針をいくつかご協議、ご検討いただいて、前進する第一歩になればと考えている。

3 議題

(1) 再建への理解促進に向けた取組について

ア 町の募金活動の取組状況等について報告（「資料1」及び「資料2」） (事務局)

お手元の資料1並びに資料2で、再建基金の取組状況について説明させていただきます。

資料1「主な募金活動」をご覧ください。現在の募金箱の設置場所、再建基金のパンフレット配布状況、街頭募金活動、協力依頼の状況について主なものをまとめております。

次に、資料2「大磯町旧吉田茂邸再建基金寄附金状況」をご覧ください。傾向といたしましては、一月当たり200万円前後で推移しておりますが、町外からの寄附金が徐々に増えてきている状況にあります。

また、吉田茂邸の再建の意義を全国に発信するという事で、みなさま方各委員も御出席下さいましたが、2月5日に東京のグランドプリンスホテル赤坂において、県等との共催によりシンポジウムを開催いたしまして、当日は、東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県から250の方が集まりました。大磯町からは、職員を含めた数字ですが、67名の方に御参加をいただいております。

シンポジウムは、防衛大学校長の五百簾頭（いおきべ）先生の講演や國學院大學准教授の柴田先生、五百簾頭先生、松沢知事によるパネルディスカッションを行い、佐藤栄作が沖縄返還に際しては、大磯まで吉田茂に相談に来ていた話や、歴史好きを背景とした吉田茂の優れた判断力に触れ、歴史を学ぶことの重要性、学生を対象に日本の近現代史あるいは郷土の歴史を学ぶことの必要性などについて議論されたところでございます。

建物につきましては、コスト面などからも100%忠実に元通りに復元することは困難ではありますが、日本庭園から見た景観イメージの再現は重視したいという話や、利用方法について、日本の近現代史を学ぶことのできるような資料を備えていくのもいいのではないかというような意見が出され、吉田茂の現代的意義を学ぶうえでは大変充実した内容でありました。

以上簡単ですが、町の取組状況についての説明を終わらせていただきます。
(委員長)

私もシンポジウムに参加させていただきました。議員さんも何人か参加しているようでしたが、大磯町からは67名ということで、3万数千人の人口のうち67名しか聞くことができなかったということで、実際にシンポジウムに出席して直接聞いた方とそうでない方とは吉田茂邸の再建への意義の受け止め方に大きな開きが生じたと思う。そういう意味では、今のところ町民の大部分に再建の意義が伝わっていないということで、大変勿体無いことと思う。

また、資料 2「大磯町旧吉田茂邸再建基金寄附金状況」では、町内の募金件数が 282 件に留まっている。募金箱については、この中には子どもたちからの 100 円とか 200 円の募金も入っており、100 万円という数字はかなり集まっているなという印象を受ける。ただし、合計で 3,800 万円という状況と町内で 282 件というのは余りにも少なく、これまでと同様の取組ではあまり大きく伸びないのではないかと思う。

イ 委員が個別に取り組んでいる内容報告

(委員長)

そこで、委員のみなさま方が個人又は所属している団体で今積極的に取り組んでいる内容があれば、これから予定している内容でも結構なのでご報告をお願いしたい。

(委員)

町長や議員は公職選挙法の関係で寄附できないとのことだが、何かやり方はないのか？広報の紙面を見ていると、寄附者一覧の掲載欄が段々小さくなってきていて、ジリ貧のような気がする。当委員会のメンバーは、各団体の司令塔役の方。様々な機関の第一線で動いている方達に集まっていただいて知恵をもらえるような形はできないか。

(委員長)

当委員会は、区長や町内会長、事務局として行政職員も入っている。町の方でもいろいろなところを訪問して動いている。まずは、ここに集まっている我々が一生懸命やっていく気持ちが必要だと思う。

ショックではあるが、一般の町民には、旧吉田茂邸の再建に向けて取り組んでいることを知らない人が結構いる。我々から動かないとダメではないか。今日の会合では、ある程度具体的の方策を決めてやっていきたい。

ウ 町民の理解促進に向けた取組策について

(委員長)

次に、町民の理解促進に向けた取組として前に進むためにはどうしたら良いか、何か提案があればご発言をお願いしたい。

(委員)

寄附したいが、500 円とか 1,000 円程度の寄附金のためにわざわざ役場まで行くのは気が引けるといった声も耳にするので、区長会の方で、町民一同とかいう形ではなくて、寄附者に名前を書いてもらって 1 軒 1 軒お願いすることはできないか。

(委員)

区長会では、昨年 7 月に基金が設置されてから、町からパンフレットを取

り寄せて各町内会に配り、各町内会館にパンフレットを配架している。区長連絡協議会として寄附もしたところである。1軒1軒に寄附をお願いするというのは、役員会や区長会に諮ってできるなら協力していきたい。

(委員)

吉田茂を知っている年代の方がかなり高齢化しているという点で、町内の人をお願いしても反応が弱い。町の広報に掲載していても果たして何人の方が関心を寄せて見ているのか。伊勢神宮の募金活動でも政教分離などの問題があったがかなりの額が集まった。月末に区長会の役員会と全体会議があるので、区長のみなさまの協力が得られれば1軒1軒に寄附をお願いする取組を進めたい。

議員には、公職選挙法で寄附ができないということであれば、知恵を出してもらえればと思う。

(委員)

区長会の総会など100人位集まる場所で、町長とか議員さんにPRとかしてもらえると良いのではないかな。

町の広報については、この年齢になれば興味や関心もあってよく目を通すようになったが、若い人達は上面しか見ない。自分自身そうだったし、イベントやマラソンなどでも、現場に来なければわからないことが多い。

(委員)

区長会が便利に使われているが、商工会、観光協会、ボランティアでも底辺を広げるためには、所属している団体の第一線で動いている会員の方達に呼びかけて行動していくことも必要だと思う。

(委員)

寄附金の件数には、匿名で寄附した方の件数もカウントされているのか。

(事務局)

匿名で寄附していただいた方の件数も入っている。

(委員)

大磯ガイドボランティア協会では、10月25日、1月16日、2月20日と大磯に人だけでなく町外の人を対象にして募金活動に取り組み、行動している。平成22年度も10回位の企画があるので、その都度募金活動に協力していきたいと考えている。また、神奈川県内には17団体あるので、それぞれの団体にも協力をお願いしていきたいと考えている。

(委員)

町内会で1軒1軒に寄附をお願いするのは、何度も何度もできるものではなく、伝家の宝刀で1回限りの手法だと思う。若い夫婦と町外から引っ越してきた人の中には町内会に入らない世帯や生活保護を受けている世帯もある。

(委員長)

1軒1軒に寄附をお願いするのは、何度も何度もできるものではないというのは、ごもっともな意見だと思う。

ここで、私から2点ほど提案させていただきたい。

1つ目は、東京のシンポジウムに行った人は、再建の意義を理解できたと思うので、私共が手分けして区長さんの協力もいただいて大磯の数地区で小規模な講演会のようなものを設けさせていただけないだろうか。

再建に向けた動きがあることを知っていただくために、東京のシンポジウムで五百籬頭先生が話した内容を話して町内の人に紹介できないか。シンポジウムの内容を完全に記録した内容のものを先生方の了解を得て使用できればそれに越したことはないが、なかなか難しい面もあると思うので、その役割としては私自身が担っても良いとも考えている。

再建の意義を伝え、旧吉田茂邸と別の形の資料館でも十分というのではなく、かつてこの場所で日本の行く末が吟味され、そして動いてきたという、日本人にとって思いのある空間であることを体験し学習できる教育の場として元の姿に再現し、未来を担う子ども達に残していく意図であることを、なるべく沢山のの人に聞いてもらい、再建に向けた町内の機運を盛り上げていくのが良いのではないか。

2つ目は、庁舎に掲げてある横断幕が小さい。気付かない人も結構いるのではないか。そこで、我々も日を決めて一定の時間大磯駅前に立って募金活動のPRをしていく。場合によってはそこには町長や議員にも、賛同していただける方には一緒に立っていただくと良いと思う。

(委員)

商工会では、役員全員が吉田邸の再建基金を呼びかける写真付きの名刺を配っている。私どもは、立場柄ビジネスマンと多く接触するが、ふるさと納税制度についてもよく理解していただくことも必要だと思う。商工会の第一線で動いている職員に対する周知という点ではいささか上滑りしていた部分も否めないが、区長さんの案、委員長の提案と、我々が出来ることを一つひとつ重層的にやっていって、町全体に雰囲気が出てくると良いと思う。

(委員長)

ローラー作戦は1回しかできないということだが、重層的な取組によって町民全員がこうした活動をまず知り、そのうちの5分の1でも寄附するようになれば、件数も数千の単位に押し上がるし、県に対しても説得力をもつようになると思う。

(委員)

団体で寄附すると本来は10万円とか20万円の単位で出せる力のある方が足並みを揃えて1万円です満足してしまうということもあると思う。件数も伸

びないし、ふるさと納税も活かさない。

(委員)

商工会では、商工会として寄附するのと別に、個人で自由に寄附するようにしている。5,000円以上の部分が所得控除になるふるさと納税制度についてよく説明していくのが良いのではないか。

(委員)

観光協会は町からの補助金が8割9割といった状況で、協会費から寄附するのは難しいと考えている。協会でも寄附して個人でも寄附するとなると二重になってしまうし。観光協会理事一同なら1件で、別々に個人で寄附すれば15件とカウントされる。ふるさと納税制度の関係もあり、次回の理事会では、個人個人でそれぞれ寄附するのが良いかなという意見を出したいと思う。

(事務局)

例えば、区長会からの寄附の受付については、一人ひとりふるさと納税の対象になるように、表面的には区長会、領収書は個人個人というような対応もしている。事前にご相談いただければ対応できるようにするので連絡していただきたい。

(委員)

委員長提案の街頭PR活動に賛成する。

(委員長)

それでは、1軒1軒に寄附をお願いする件について区長会で相談していただくことにご異議ございませんでしょうか。

⇒一同賛成

次に、街頭募金の件についてご異議ございませんでしょうか。

⇒一同賛成

次に、町内をいくつかに分けて小規模の講演会をやっていくということで、場合によっては安く講演していただける方を見つけて理解促進を図る件についてご異議ございませんでしょうか。

⇒一同賛成

それでは、以上の方針で取り組んでいきたいと思う。

(委員)

税制のPRや議員の協力はどうしていくのか。

(事務局)

東京のシンポジウムのバスの中で、議長も委員長や副委員長と相談して考えていきたいという意向がおありの様子だったので、議長には、委員長や副委員長と相談できるよう連絡したいと思う。また、ふるさと納税の説明については、以前広報や回覧を通して案内しているところだが、講演会を通して改めて説明していきたい。

(委員)

1軒1軒に寄附をお願いする名称とか、寄附者名や住所などの記載内容の一覧表をどうするかこの場で議論していただければと思う。

(委員)

例えば、氏名、住所、金額を一覧表で書いたものが300人分集まったとして、この場合も300件になるのか。

(事務局)

そのようになる。なお、全員の方に領収書を発行し、また、希望者にはふるさと納税用の証明書も個々に発行する。

(委員)

この場合、町は、寄附のお願いをする立場になれるのか。

(事務局)

なり得る。

(委員)

一口当たりの金額を委員会で決められないか。

(委員長)

一口いくらにするかは、当委員会で一口当たりいくらなら良いのか悪いかが決められるものではないと思う。

(事務局)

1軒1軒に寄附をお願いすることは1回限りの伝家の宝刀との話があったが、実施する時期について、具体的な再建案が決まった後が良いのか、そうでなく準備ができ次第すぐに取り掛かるのか最適な時期を見極める必要はないか。

(副委員長)

既に知事が「日本庭園から見た景観イメージの再現は重視したい」と発言しているので、これで進めていけると考える。

(委員)

以前は、そこに吉田茂邸があっても遠くから眺めることしかできなかったが、再建された後は、町民の方も利用できるようになるということも説明していくと良いかと思う。

(副委員長)

町内の各種団体にも取組をお願いする必要があると思う。

(委員長)

この再建に向けた動きは、予算が決まって実施している事業ではなく、何もないゼロの状況の上に乗っているものであるが、大磯にとっても日本国民にとってもより良い方向にもっていき、必ず良い成果を得るために、今一生懸命取り組んでいかなければいけないものであることを認識されたい。

(委員)

町民が再建に意義を理解しないうちに1軒1軒に寄附をお願いすると効率が悪くなるのではないか。小規模の講演会を実施した地区から順次やるとか。効果が見込めるタイミングを見て平行してやっていくのが良いかと思う。

4 その他

(事務局)

各種団体で実施している事業に、「吉田茂邸再建基金を応援しましょう」ということで、各事業への参加費用に一定額の上乗せをするとか、募金箱を設置していただくとか、その手法については強制できないが、冠をつけた事業の実施をお願いしたいと検討している。近々、代表者の方に趣旨説明会を、吉田茂邸の紹介ビデオを用いながら実施したいと考えている。

(委員)

団体数はどのくらいあるのか。

(事務局)

町内に80団体程度で、そのうち40団体位を想定している。